

失敗して、苦境と挫折を乗り越えてこそ 自信を持つことができる

学校と
経営者の交流活動
推進委員会 主催

3月15日開催

学校と経営者の交流活動推進委員会(杉江和男委員長)は3月15日、第8回「教育フォーラム」を開催し、中学生とその保護者の方々、教師、教育関係者ら約160名が参加した。杉江委員長は開会の挨拶の中で、「社会で生きるために、自分で考え自分で行動する自立性が重要視されている。今日この場でも積極的に発言してほしい」と生徒たちに語り、主体的に参加するよう求めた。基調講演とグループ・ディスカッション、参加者の感想の一部を紹介する。

■第1部 基調講演 失敗しよう。失敗して成長の糧にしよう 講師：長島 徹 副代表幹事 帝人 相談役

■ グローバル時代の コミュニケーション

今、社会はグローバル化が急速に進展し、ヒト・モノ・カネ・情報が簡単に国境を越えて、世界中に行き渡るようになってきました。ビジネスの世界では、世界中の人がお客さまとなり、仕事はグローバルに展開するようになりました。スポーツや芸術・音楽分野でも、若い日本人が世界を舞台に活躍しています。

一方で、海外に留学する日本人は減

少し、景気が低迷した「失われた20年」の間に、日本人は内弁慶になったと言われています。しかし、現代では、日本だけにとどまっていたはグローバル競争に負けてしまいます。そこで求められる人材は、世界中の人とコミュニケーションができる人です。コミュニケーションとは人と人とのつながりです。「仁義礼智信」を表す「五徳」という言葉がありますが、中でも人を思いやる心「仁」が最高の道德と言われています。コミュニケーションではこの

もいいので自分の意見を言い、それを行動に移して初めて人の信頼が得られます。一方、相手の意見も聞かなければなりません。「きく」には「聞く」「Hear」、「聴く」「Listen」、「訊く」「Ask」の三つがあり、“Hear”は単に音として「聞く」、「Listen」は心を込めてしっかり「聴く」ですが、「聴く」ことができれば質問を「訊く」「Ask」ができるようになってコミュニケーションが成立します。

■ 失敗して、夢をかなえる

皆さんはこれからどんどん失敗をしてください。失敗を受け入れて「何とかなる」と楽天的に考え、次の目標に向かって努力し、チャレンジをし続けてほしいと思います。

トーマス・エジソンは「1,000回失敗したわけではない。1,000のステップを経て電球が開発されたのだ」と言って

■ プログラム

(役職は開催当時)

第1部 基調講演

テーマ：「失敗しよう。失敗して成長の糧にしよう」

講師：長島 徹 副代表幹事 (帝人 相談役)

第2部 グループ・ディスカッション

●生徒グループ

テーマ：「勉強するのは何のため? 働くってどういうこと?」

●教員/保護者グループ

テーマ：「これからの社会で求められる力と教育のあり方」

います。この言葉から高い志と情熱を感じ取ることができます。また、ジョン・ルー前駐日米国大使は講演の中で、若い世代の日本人に“Dream Big, Take Risk”「夢を大きく、リスクを取ってチャレンジしよう」という言葉を贈りました。言い換えれば「失敗は成功のもと」だということでしょう。

そのためにも、人生を明るく見通して物事を苦にしないこと、夢と希望を持つことです。夢を達成するために方

法や方向、手段を考え、とにかく行動してください。そうすれば、失敗しても必ず解決策が見つかるはずです。そこで苦境と挫折を乗り越えてこそ、自信を持つことができるのです。

「人事を尽くして天命を待つ」ということわざがあります。ソウル五輪100m背泳ぎで優勝した鈴木大地選手は「人事を尽くして天命を掴む」と、絶対に勝ちたいという強い意志を示しました。私は「人事を尽くすと神に祈る」とい

う言葉が好きです。小惑星探査機「はやぶさ」の帰還を成功させたプロジェクトマネジャー川口淳一郎さんの言葉でもあります。成功するまであきらめずに継続して努力することを神様に祈るという意味です。

さらに「心技体」を鍛え、過去を振り返らず、どんどん先へ進みましょう。皆さんには東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年以降の日本を背負う人になってほしいと願っています。

質 疑 応 答

Q 日本人の資質の良いところと、逆に改善しなくてはいけないと思ったところは何かですか。

A 米国のビジネススクールにいた時、私はすでに社会人でしたが、他の学生よりも難なく数学の計算ができました。日本人は計算する能力が優れているのかもしれませんが。

一方、彼らは行動力に優れ、自分の意見をはっきりと言います。特に外国人同士のビジネスで共通しているの

は、お互いに自分の立場や考えをまず伝えることです。すると、二人の間の距離感や考え方が分かります。そこがスタート地点です。

また、日本人は小さなことを下から積み上げる積み上げ型で、外国人は上から大きな問題として捉えて、考えます。その違いを分かった上で、コミュニケーションを取ることが大事です。

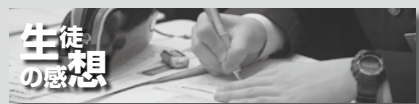
Q 新しいことを起こしたり、人の思い付かないことをしたりするには、どんな努力をしたらいいのでしょうか。

A そう思うだけで一歩前進していま

す。後は思ったことを実行してみることです。すると、それが良いか悪いか結果が出ます。うまくいかなかったらしめたものと思ってください。なぜできなかったか、何が悪かったのかが分かるからです。そこで、今度は別の方法を試したり、方向性を変えてみたりすればよいでしょう。

失敗したらラッキーだと思って、違うやり方を試せばいいのです。すると、人が考えていないような新しいことが発想できますから。すぐに関動してください。

生徒の感想



●「失敗しても何とかできる」という考え方は、失敗してしまうことが多い僕にとって、失敗を恐れずに目標に突き進んでいくための合言葉のようで勇気をもらえました。失敗から何かを学んで、次に活かしていくことが大切であると学ぶことができました。(3年・男子)

●長島さんは多くの苦労や挫折を乗り越えて帝人の社長になったと聞いて驚きました。大変なことや嫌なことに対してこそ挑戦しようと思えました。どんなつらい状況においても、考え方を少し変えることで、状況を一転させることができると分かりま

した。失敗しても、楽天的に考え、目標にチャレンジしようと行動を起こすことが大切だと思いました。今回の講演を聴いて前向きに物事を考えることができるようになりました。(1年・男子)

●ささやかな目標の積み重ねが夢につながることを学びました。また、留学のことなど世界にもかかわる話を聞くことができ、とても面白かったです。質疑応答では、他の学校の生徒の積極的な姿に刺激を受けました。「失敗して学ぶ」ことは大切なことをあらためて知ることができました。(2年・女子)

●海外に目を向けることの大切さが分かりました。私自身の見聞を広げるために、ぜひ海外に行こうと思

います。そのために英語を頑張りたいです。日本国内のさまざまな問題についても考えていこうと思います。

(2年・女子)

●世界の人々と話せる人でなければリーダーになれないという言葉が心に残りました。私は海外での生活が長かったのですが、日本が一番住みやすく良い国だと感じたので、世界や留学などにはあまり興味がありませんでした。日本という世界一好きな国で、日本のために働きたいと思っているからです。しかし、国内で活躍するためにも世界とのかかわりは必要だと考えが変わりました。将来の選択肢を狭めずに、留学なども考えてみたいと思います。

(3年・女子)

勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？

第2部のグループ・ディスカッションでは生徒・教員・保護者の各グループに分かれ、講師による問題提起とともに、参加者から出された課題について話し合った。現状抱えている課題を共有し、解決への道筋を見いだすこともできたようだ。

「リーダーシップ」「考える教育」 今抱えている課題を討論

生徒らは8グループに分かれ、各グループに経済同友会会員が講師として入り、「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」をテーマにディスカッションをした。佐々木順子氏は「働くこと」を「^{はた}らく^{らく}にすること」と説き、「周りの人や地域社会を楽にして、『ありがとう』と言ってもらうこと。どんな働き方をするにせよ、誰の役に立っているかを意識して」と訴えた。また、生徒たちはリーダーシップを「周りから信頼されている学級委員」「人の立場に立って考えている生徒会長」など「上に立ってみんなを引っ張っていくタイプ」とイメージしていたが、佐々木氏が「リーダーは一人ではないし、日常生活の中では誰でもリーダーシップを発揮する機会がたくさんあるのでは」と投げ掛けると、生徒たちは「リーダーシップを伸ばすにはどうしたらいいのか」「判断が必要なときはどうすればいいのか」といった疑問を出し、話し合った。



また、同じく生徒グループの古川紘一氏は「海外からの留学生は口をそろえて『日本の学生は勉強しない』と言う。彼らは明確な夢と目的を持って勉強している。海外の人と戦うためには自分で考えて自分で決めること、責任を持つことが大事だ。そうやって夢をかなえるとよい」と主張した。生徒らは「どうしたら勉強が好きになれるのか」という問題を考えた。また、一生徒の「人をまとめていくにはどうしたらよいのか」といった悩みに他の生徒らがさまざまな意見を出し合った。古川氏も会社経営の経験から、「時に怒ることもほめることも大事だ。どうしたらみんなのモチベーションを上げられるのかを考え、気に入らない人がいても悟られないよう、公平に接することが大事では」とアドバイスした。

教員対象は6グループに分かれ「これからの社会で求められる力と教育のあり方」をテーマにディスカッションをした。そのうち杉江和男委員長のグループでは、「企業や社会が求めているのはグローバル社会で活躍できる力。それが学校教育の現場には伝わっていない」「考えさせる教育に変えたいが、さまざまな障壁がある」な



ど教員が抱える課題を話し合った。特に、生徒に考える力を身に付けさせる妨げとして、入試制度や家庭教育のあり方を問題視した。杉江委員長は「企業の社員教育では、難しいと思っても本人の考えでまずやらせる。失敗したら本人が自ら修正する。まさにPDCAを繰り返すことが必要ではないか」と述べ、教員も「若手教員の失敗を許して任せることが大切だ。保護者に対しても、これからどんな人材が求められ、どんな教育をすべきか、理解を深めてもらう機会が必要だ」と訴えた。





生徒グループ

●社会で実際に活躍されている方の言葉にはとても重みがあり、一つひとつが心に響きました。自分の考えていることを皆さんに発表することで、自分の中で整理ができました。(3年・女子)

●同じ中学生という立場でも、違う環境で生活している人と話すことで、自分の課題が具体的になりました。皆さんの抱えている問題との共通点も多く、自分に置き換えて考えることができました。(3年・女子)

●自分の考えは胸に秘めているだけではなく、誰かにぶつけてみることで、つまり自分で行動することが大切であるという話が役に立ちました。(3年・男子)

●自分が思うことと、他者が思うことの違い、価値観の差が思いのほか大きかったです。リーダーとはどのような人か、グローバル社会で必要なことなど、初めてこんなに身近で話を聞けて、なるほどと思えました。(2年・女子)

教員グループ

●企業や社会が教育の大切さ、再生に強い関心を持っていくくださるのはとてもありがたいです。また、家庭や地域の教育力向上が急務だと思います。

いました。

●講師のパワーを直接感じる事ができて、とても刺激になりました。

●子どもの学力の問題を、教科の力に特化して考えるのではなく、本来の意味で、社会が求める力を身に付けるという観点で考えることが大切だと感じました。

●社会(企業)ニーズの本質の一部が理解できました。今後の学校教育のあり方に一筋の光が見えました。

保護者グループ

●英語の経験や家庭でのしつけの話など、とても楽しく、参考になる話が多かったです。今後の日本の展望など、子どもと話をしたいと思います。



■参加講師 (役職は開催当時、五十音順)

●生徒グループ

- 小林 恵智 (中日科学技術発展中心 理事長)
- 佐々木 順子 (日本マイクロソフト 執行役)
- 島田 俊夫 (シーエーシー 取締役会長)
- 出口 恭子 (アッヴィ 取締役社長)
- 永山 妙子 (成都天府ソフトウェアパーク 日本商務代表)
- 日高 信彦 (ガートナー ジャパン 取締役社長)
- 廣瀬 駒雄 (オーエム通商アクト 取締役社長)
- 古川 紘一 (森永乳業 相談役)

●教員グループ

- ◎杉江 和男 (DIC 取締役会長)
- 遠藤 勝裕 (日本学生支援機構 理事長)
- 大塚 良彦 (大塚産業クリエイツ 取締役社長)
- 同前 雅弘 (大和証券グループ本社 名誉顧問)
- 林 明夫 (開倫塾 取締役社長)
- 四方 ゆかり (グラクソ・スミスクライン 取締役)

●保護者グループ

- 藤田 實 (オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン 名誉会長/ジャパン兼リージョナルディレクター/アジア・大洋州)

※◎は学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長、○は副委員長